





【画像・生理機能検査】

オプション検査も含まれます

上部消化管検査	内視鏡またはX線バリウム検査	食道、胃、十二指腸の炎症・潰瘍・腫瘍等の有無を調べる。
大腸内視鏡検査		内視鏡で大腸の炎症・潰瘍・腫瘍・ポリープ等の有無を調べる。
大腸CT検査(CTC)		飲む造影剤を使用し、CTで大腸の腫瘍・ポリープ・憩室の有無を調べる。
上腹部超音波検査		肝・胆・膵・脾・腎・腹部大動脈の観察。主に嚢胞・結石・ポリープ・腫瘍等の有無を調べる。
下腹部超音波検査		膀胱の観察。腫瘍・憩室・結石等の有無を調べる。
心臓超音波検査(UCG)		心臓壁の動きや逆流、弁の動き、腫瘍の有無を調べる。
冠動脈CT検査		造影剤を静注し、心筋梗塞や狭心症の原因となる心臓に栄養を送る冠動脈の狭窄や閉塞を調べる。
胸部X線検査		肺癌・肺気腫・肺結核などの他に心臓の大きさや大動脈硬化をみる。特にCTでは肺癌の早期発見を目的とする。
肺CT検査		
内臓脂肪面積		腹部CTで臍部の断面図で内臓脂肪を計測する。
脳検査	MRI・MRA	MRI・MRAで脳実質の変化や脳血管の状態を調べる。
動脈硬化検査	血圧脈波検査(ABI) 頸動脈超音波検査	主に下肢について動脈硬化の有無や程度を調べる。 頸動脈を観察し、動脈硬化やつまりの有無を調べる。
心電図検査		不整脈・虚血性変化・心筋梗塞などの有無を調べる。
肺機能検査	努力性肺活量 1秒量・1秒率	1秒率は70%以下で、気管支喘息や肺気腫を疑う。 肺活量は予測値の80%以下で肺腺維症、肺結核等を疑う。
喀痰検査	細胞診	喀痰から癌細胞の有無を調べる。
骨密度検査	X線(Xp)法 超音波(US)法	腰椎と大腿骨頸部で測る。US法よりも精密。 骨粗鬆症のスクリーニング検査。踵で測る。Xp法よりも簡便。
睡眠時無呼吸症候群スクリーニング検査		就寝中の血中酸素濃度を調べる。低下している場合は睡眠時無呼吸症候群が疑われる。
PET検査		癌の発見を目的とした全身スクリーニング検査。癌細胞が糖を取り込む性質を利用し、糖に似た放射性検査薬を注射し断層撮影すると癌細胞に集積し発見できる。

【婦人科系・乳房検査】

子宮頸癌検査	内診と細胞診を行い、婦人科疾患・子宮頸癌を調べる。	
経膈超音波検査	子宮内部や卵巣の病変の有無を観察する。	
感染症	淋菌	子宮頸癌検査の際、細胞診と一緒に検体を採取し調べる。
	クラミジア	淋菌やクラミジアは不妊の原因となる場合がある。
	ヒトパピローマウイルス	ヒトパピローマウイルスには数十種類あり、そのうち高率で子宮頸癌の原因となる種類のウイルス感染を調べる。
乳房視触診	医師による視触診で乳房疾患の有無を調べる。	
マンモグラフィー検査	乳腺専用のX線撮影。しこりを作らないがんの発見に有効。	
乳房超音波検査	主に乳房内腫瘍の有無・乳腺組織の状態を観察する。	

【甲状腺検査】

血液検査	FreeT3	甲状腺疾患を調べる。 左記3種の数値を調べ、異常値の組み合わせによってバセドウ病や橋本病などの疾患を推測する。
	FreeT4	
	TSH	
甲状腺超音波検査	甲状腺の大きさやしこりの有無を観察する。	

検査項目と見方



社会医療法人財団 慈泉会 相澤健康センター


お問い合わせ:(TEL)0263-33-5887(13:00~17:00)

基準値については、結果報告書をご覧ください


メタボリックシンドロームの診断基準	
必須項目	腹囲 男性:85cm以上 女性:90cm以上 (男女とも内臓脂肪面積100cm ² 以上に相当)

選択項目	中性脂肪:150mg/dl以上 かつ/または HDLコレステロール:40mg/dl未満
これら項目のうち2項目以上	収縮期血圧:130mmHg以上 かつ/または 拡張期血圧:85mmHg以上 空腹時血糖:110mg/dl以上

【身体計測 その他】

身長	BMI(肥満指数) = $\frac{\text{体重(kg)}}{\text{身長(m)}^2}$	
体重	標準体重 = $\text{身長(m)}^2 \times 22$	
腹囲	内臓脂肪型肥満を簡単に調べる方法。おへその位置で測定する。	
血圧	血圧が高い状態が続くと動脈硬化が進み心筋梗塞や脳卒中等のリスクが高まる。	
心拍数	脈の速さを調べる。脈拍数。血圧測定と一緒に測定している。	
聴力検査	難聴は耳垢・耳管狭窄・中耳炎・メニエール病などの他に、加齢・心因・騒音等により起こる事もある。低音と高音で聞こえる音の大きさを調べる。	

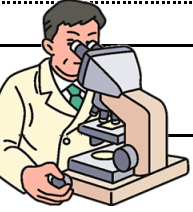
【眼科系検査】

眼圧検査	眼球の弾力性を測定し、緑内障などの疾患を調べる。	
眼底検査	眼底写真を撮影し、眼底出血・動脈硬化・白内障などの程度を調べる。	
視力検査	近視・遠視・乱視・白内障・緑内障などがあると視力障害を起こすことがある。	
簡易視野検査	緑内障の時などに起こる視野欠損を簡易的に検査する。	
OCCT検査	光干渉断層計で網膜の断層写真を撮影し緑内障や黄斑疾患を早期発見する。	

【尿定性検査】

比重	尿濃縮力の低下や糖尿病等で異常値を示す。
pH	尿中に細菌が多いと異常値を示す。
蛋白定性	慢性腎炎・ネフローゼ・糖尿病性腎症で陽性となる。
糖定性	糖尿病・腎症糖尿で陽性となる。
潜血反応	腎臓・尿路系の疾患(結石・炎症・腫瘍等)が原因で出血があると陽性となる。
ウロビリノーゲン	肝臓病・溶血性貧血のときに陽性となる。

【尿沈渣】

赤血球数	尿を遠心分離して顕微鏡でみる。主に左記項目の有無を調べる。	
白血球数 扁平上皮細胞 円柱	腎炎・尿路結石・尿路感染などで増加する。	

【便検査】

便潜血	大腸癌のスクリーニング検査。免疫法で消化管出血の有無をみる(2日法)。
-----	-------------------------------------

【腫瘍マーカー】

C A 1 9 - 9	主に膵臓癌のとき高値となる。
D U P A N - 2	
P S A	主に前立腺癌のとき高値となる。
C E A	消化器系・呼吸器系の癌などで高値となる。
C A 1 2 5	婦人科系の癌(主に卵巣癌)で高値となる。

【血球検査】

白血球数	炎症・血液疾患等で増加する。ストレスや激しい運動でも一時的に増加する。
赤血球数	貧血や赤血球増加症の程度をみることができる。
血色素量	
ヘマトクリット	
M C V	この3つの値から鉄欠乏性貧血・溶血性貧血再生不良性貧血などの貧血の種類がわかる。
M C H	
M C H C	
血小板数	減少すると出血しやすく、血液が止まりにくくなる。
白血球分画	白血球の種類のを調べ、疾患の鑑別をする。



【肝機能検査】

総蛋白	主に肝疾患・ネフローゼ症候群等で異常値を示す。
アルブミン	肝臓等で合成される蛋白で、栄養不良・肝疾患により変動する。
A / G 比	血清中のアルブミンとグロブリンの比率。種々の状態で比率が変動する。
総ビリルビン	主に胆道系の閉塞等で高値となり、多くなると黄疸の症状があらわれる。
ALP	肝、胆道系や骨に異常があると高値になる。
γ-GT	肝臓の働きを示す酵素。肝障害などで低下する。
GOT (AST)	肝障害により高値となる。
GPT (ALT)	
γ-GT	肝、胆道系疾患や飲酒で上昇する。
LDH	心筋梗塞・肝炎・血液疾患ほか悪性腫瘍で高値となる。



【脂質】

総コレステロール	高値になると動脈硬化の原因となる。
HDLコレステロール	善玉コレステロールと言われ動脈硬化を防ぐ。
LDLコレステロール	悪玉コレステロールと言われ動脈硬化を進行させる。
non-HDLコレステロール	HDL-コレステロールを除いたコレステロール。動脈硬化リスクを管理できる指標。
中性脂肪	肥満・飲酒・カロリーの取り過ぎで上昇する。

【糖代謝】

空腹時血糖	高い場合は糖尿病が疑われる。
糖負荷試験	1時間値 2時間値 糖代謝異常(隠れ糖尿病)を発見する。
ヘモグロビンA1c	過去1~2か月の血糖状態を反映している。



【膵機能検査】

血清アミラーゼ	膵・唾液腺疾患で高値となる。
---------	----------------

【腎機能検査】

尿素窒素	脱水や腎障害の時、高値になる。
クレアチニン	腎機能に障害があると増加する。
糸球体濾過量	腎機能低下の程度を調べる。

【痛風】

尿酸	痛風の時高値となる。
----	------------



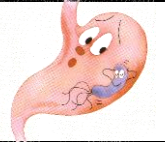
【電解質】

ナトリウム	腎障害・下痢・嘔吐・内分泌疾患等で異常値となる。
カリウム	
クロール	
カルシウム	骨疾患・副甲状腺機能障害で異常値となる。
血清鉄	鉄欠乏性貧血の程度を調べる。



【血清検査】

R F	慢性関節リウマチなどで高値となる。
C R P	炎症性の疾患がある場合、高値となる。
R P R テスト	肝炎・自己免疫疾患・梅毒などの疾患で陽性となる。
H B s 抗原	B型肝炎にかかっている可能性がある。
H C V 抗体	C型肝炎にかかっている、または過去にかかった可能性がある。
血液型	血液型(ABO式、Rh式)を調べる。



【胃がんリスク関連検査】

A B C 検診	ペプシノーゲン	血清中のペプシノーゲン値を測定し胃粘膜の萎縮を調べる。
	ピロリ抗体価検査	血清中のピロリ菌抗体値を測定しピロリ菌感染を調べる。
※ABC(胃がんリスク)検診は、ペプシノーゲン比とピロリ抗体価によって胃がんリスクを層別化する。		
ヘリコバクター・ピロリ菌検査	ピロリ抗体価検査 尿素呼気ガス試験	胃潰瘍の原因といわれているヘリコバクター・ピロリ菌の有無を調べる。

【簡易認知機能検査】

MMSE(ミニメンタルステート検査)	MMSEは11項目、長谷川式は9項目の設問があり、口頭による質問形式で行い、簡易的に認知機能を調べる。
長谷川式簡易知能評価スケール	

